

「願懸重宝記」にみられる歯科の迷信・俗信*

鈴木 勝** 新国 俊彦***
谷津 三雄**** 鈴木 邦夫*****

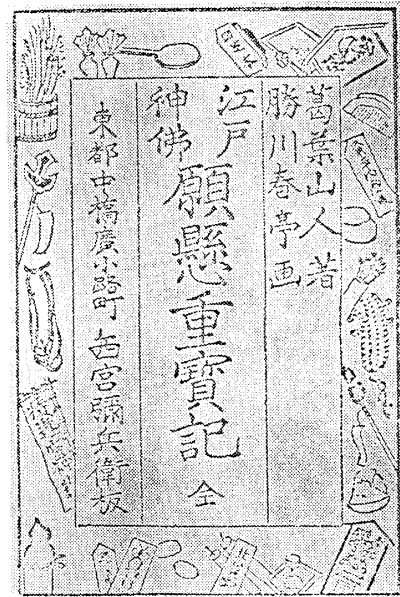
宇宙旅行すら可能になりつつある今世紀においても、なお数多くの迷信や俗信が現存しているのみならず、世間にはなおこれらの迷信や俗信に頼らなければならない人も少なくないという。

医療に関する迷信や俗信の出典をみるのに、江戸中の流行神仏を中心に、その願かけの方法を記した「江戸、神仏、願懸重宝記、初編全」(文化13年刊)が有名である。

本書は本文20丁、西宮弥兵衛板、東都中橋広小路町の小冊子(16×11cm)で、昭和9年と同28年の2度、複製本として出版されているとはいえ、それすら今日殆んどみられず、古書展においても稀覯本に属し、よしんば探しえても極めて高価である。

本文は疾病に関する31の願いごとを12の絵を挿入して、その当時の「願かけ」の方法を記したもので、葛葉山人著、勝川春亭画と表紙にもかかれてあるが、本文には万寿亭正二著とあるので、どちらかは今日のペンネームでもあろうか。尚、著者の万寿亭正二と勝川春亭の伝は未考である。

文化年代の「北林堂蔵板書目」に万寿亭正二大人著、願懸重宝記、全一冊とあり次の如く書評されている。「凡そ神仏へ祈願奉るにそれぞれの法つかさとり給ふ所あり、故に東都に名高き利生あらたにして奇特あるを集め縁日並に願のかけやう願ほどきの仕やう何れも所書きまで委しくしたる重宝の書なり」とあって、大阪心斎橋筋北久太郎町、河内屋喜兵衛、江戸日本橋通二丁目、山



城屋佐兵衛、同中橋広小路町、西宮弥兵衛、の三書林より発売されていたことがわかる。

今日本書をよむに甚だ滑稽な内容であるが、医学知識のとぼしい時代なれば、市井においては、こうして自らなぐさめざるを得なかったのであろう。いずれにせよ、本書により医学に関する迷信や俗信の他に、江戸時代風俗の一端をうかがえるので、その全目録を述べ、更にそのうちから歯科に関するものについて、若干の考証を試みて歯学史研究の資料の一助としたいと思う。

願懸重宝記の目録

- 一、高尾稲荷の社：頭痛の願
- 一、錐大明神：疱瘡の願
- 一、頓宮神：諸願
- 一、おさんの方：虫歯口中一さいのぐわん
- 一、石の婆々様：小児百日咳のぐわん
- 一、鶏卵の守札：けがせざる守
- 一、京橋の欄檻：頭つうの願

* Superstitions and Folklore about tooth that are found in "Gankake Chohoki"

** Masaru SUZUKI 日大松戸歯科大学

*** Toshihiko NIIKUNI 日本大学歯学部

**** Mitsuo YATSU 日大松戸歯科大学

***** Kunio SUZUKI 日大松戸歯科大学

- 一、日本橋の欄檻：百日咳の願
- 一、女夫石：ふう婦の中のむつまじくなる
- 一、北見村伊右衛門：蛇よけの札
- 一、目黒の滝壺：小児の月代
- 一、鎧の渉の河水：ほうそうの願
- 一、痰仏：一さいの痰
- 一、痔の神：痔のぐわん
- 一、孫杓子：疱瘡のぐわん
- 一、幸崎甚内：瘡の願
- 一、糸の平内：諸願
- 一、日限地藏：諸願
- 一、大木戸の鉄：脚気の願
- 一、榎坂の榎：歯のぐわん
- 一、浅草寺の仁王：疱そう、はしかのぐわん
- 一、三途川の老婆：口中のぐわん
- 一、縄地藏：諸願
- 一、茶の木の稲荷：眼病の願
- 一、熊谷稲荷の札：とうぞく除
- 一、王子の鎗：諸ぐわん
- 一、松屋橋の庚申：諸ぐわん
- 一、痣地藏：いぼのぐわん
- 一、子の聖神：腰より下の病
- 一、節分の札：難産
- 一、御張符：諸願

の計31で、その願かけを分類すると諸願が最も多く7、疱瘡及はしか4、歯及口中3、頭痛2、百日咳2、けがよけ、ふう婦の仲、蛇よけ、小児、痰、痔、瘡、痣、眼、脚気、腰より下の病、難産及とうぞくよけなど各1となり、歯科に関するものが第3位にランクされることは、歯痛は激痛であるばかりでなく、難病のひとつとされていたためであろう。

なお、目録をみるに歯科に関するものには、願とかかずにぐわんとかいてあるのは、いかなる意味があるのであろうか。

その他、高尾の宮、おさんの方、葵坂の榎、芝大木戸、頓宮神、熊谷いなり、京橋の欄檻、女夫石、業平橋の地藏、茶の木いなり、王子の鎗祭、浅草の仁王、など12の絵が春亭により画がかけ挿入されている。

歯科に関する迷信

口中おさんのかた一虫歯、口中一切のぐわん

西の久保かわらけ町善長寺といふ寺に、口中おさんのかたとてあり、諸人むしばのなやみすべて口中のやまひをいのるにたちまち平愈するなり、願かけのとき本堂にいたり楊枝をかりうけ是を朝夕口中の痛むところへあて撫ながらおさんのかたとしんじんするにいかなるいたみにても、すみやかに平愈せずといふことなし、平愈してのちふたび楊枝をもとめおさんのかたへ奉るなり

良樹院珊誉大禅定尼 御縁日 八月八日

くわしくは其寺にいたりて縁記をたづねべし…。と。善長寺は浄土宗で元麻布飯倉五丁目にあったという。阿珊の方は水野勝成の女にて、歯牙を患ひて死す。後の人我に祈願すれば愈ゆと謂ひ。「阿珊地藏と崇む」と複製版に追記されている。

榎坂のゑのき一歯のぐわん

溜池のあをい坂のうへに、大ゑのきあり。この木の根にいたり白山権現と念じ、虫歯のぐわんをかけ、治してのち柳の楊枝を木の根に供ずるなりと里人の物がたりなればしるす……と。

榎坂は赤坂榎坂町で、もとえの木の大樹があって坂名となり、また、町名となったが、絵には葵坂の榎となっている。

三途川の老婆一口中のぐわん

同寺奥山の左の方、三途川の老婆、この木像いたって古代にして前歯二つがかけ損じたり。よって此木像に歯のいたむことをぐわんがけするに、すみやかに平愈せずといふことなし、願望成就のとき楊枝を供ずるなりという。すべて口中のやまひには、此老婆の木像にきぐわんなしなば、平愈せずといふことなし。……と。

「共古随筆」に「口中一切の願掛を致さば多驗ありとて房楊枝を納む。此像慈覚大師の作とて御影にも記せど、老婆の手に茶筌を持てり、茶筌は慈覚大師の時代のものならず（中略）時代違ひの像にて笑ふべき上に、老婆の歯が欠そんじおればとて、口中の病を癒すと信ずるものおかし云々」との否定文がみられる。

以上の3種類が目録による歯牙口中一切の願である。

なお、諸願やその他にも歯痛にきくという内容のものもあるので、それを附記すると次の如くに

なる。

高尾稻荷の社—頭痛の願

そもそもは頭痛の願であるが「……頭痛にかぎらず、すべて髪の毛薄き人、頭瘡のたぐひ、あたまの頬（わずらい）ある人願がけして其験しうたがひなし」とあるので、頭痛の他にそのたぐいの歯痛にも効験ありと考えられるのみならずはげ頭にもきくとあるは現代人でもすぐとびつきたくなる人もあるであろう。

京橋の欄檻—頭つうの願

日本橋の欄檻—百日咳の願

これは百日咳の願と目録にのっているが、その本文をよむと「京ばしのぎぼうしにおなじすべて橋のぎぼうしに願がけする事東都のみにあらず洛陽五条のはしにいたりて欄檻にぐわんかけなし、煎餅を加茂川へながして齒のいたみをいのる。橋は大勢の人気のよるところなるがゆゑなるべし、四ツ谷のさめがはし、麻布の筭ばしなどいづれも頭痛又は小児百日咳の願かけ他」と、この京橋と日本橋の橋の擬宝珠に願かけ、まじないすると頭痛、歯痛、百日咳によくきくという。そしてこのような橋は四つ谷のさめがはし、麻布のかうがいばしもよいという。又江戸神仏といえながら洛陽五条のはしなど、京都についてもふれていること

からも、大阪の河内屋喜兵衛からも売りだされていたのであろうか。

むすび

願いごとの成就を神や仏に祈って“願をかける”ことは古今東西を問わず世俗に広く行なわれるところで、疾病の平癒祈願もその例外でない。本書はその“願かけ”のガイドブックとして江戸時代の市民生活に大きい役割を果たしたと思われる。

いずれも迷信といえば、それまでであるが、当時のポピュラーな疾患がうかがわれるし、各神仏それぞれに専門分科を想定した信仰態度も面白く、一方、立願する病者自身の念力や、“お参り”による環境条件の変化が計算に入れられているのも散見され、医学史や歯学史の研究の上だけでなく、文化史や風俗史の研究資料としても貴重なものとする。

文 献

- 1) 葛葉山人：江戸神仏願懸重宝記，文化13年。
- 2) 磯ヶ谷紫江：江戸神仏願懸重宝記絵入全，昭和28年（複製）。
- 3) ライオン歯磨本舗：よはひ草第1輯，昭和3年。
- 4) 齒葉面白子：医齒藥雜記—願懸重宝記，齒界広報20(2)～21(4)，昭42。